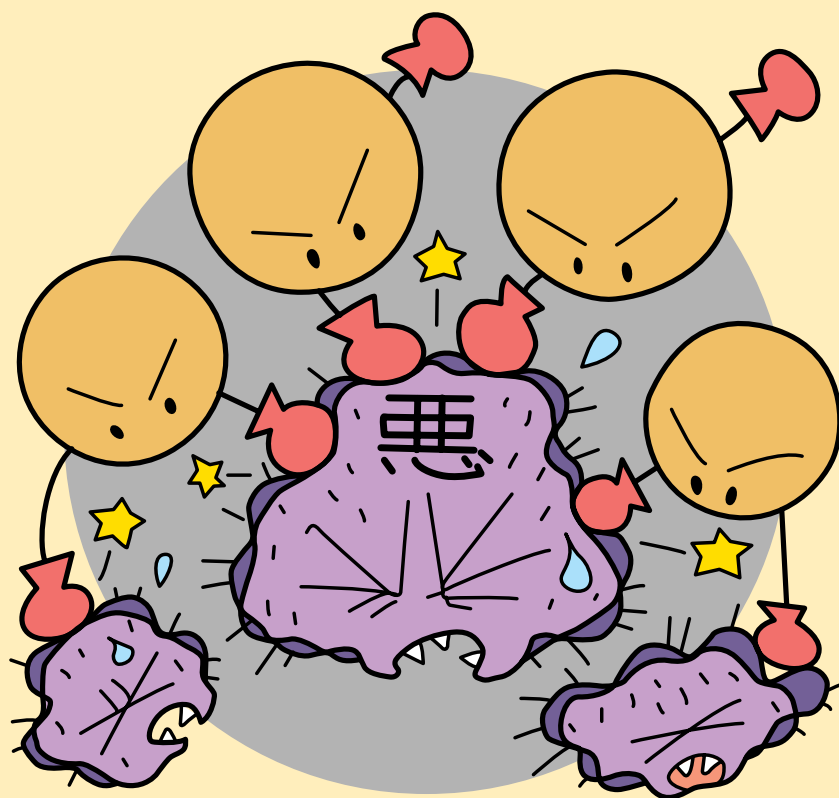


府民のための 感染対策

Q & A

京都府・社団法人京都私立病院協会・院内感染対策推進事業運営委員会



注：ここに記載してある内容についてのお問い合わせは、
京都私立病院協会にFAX (075-313-5911) または
e-mail (info@khosp.or.jp) でお送りください。

もくじ

結核

1

- Q 1 どのように感染するの？
- Q 2 感染防御の注意点は？
- Q 3 結核の診断と治療

VREについて

2

- Q 4 どんな菌？増えているの？
- Q 5 感染したら症状は？感染したら困るの？
- Q 6 日常的に感染するのですか？(どのような状況下で病気になるのですか)
- Q 7 感染を防ぐには？

インフルエンザについて

3

- Q 8 普通のかぜとどう違うの？
- Q 9 どのように診断治療するの？
- Q 10 いつごろ流行するの？
- Q 11 誰が流行を把握するの？
- Q 12 かかったらどうすればいいの？

ノロウイルスについて

5

- Q 13 なにから感染するの？
- Q 14 感染を予防するためには？

手洗いについて

5

- Q 15 手洗いの効果は？

結核

Question Q 1

どのように感染するの？

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。肺結核患者の肺の中で増殖した結核菌は、咳などをしたときにでる「しぶき」とともに、空中に飛び散ります。周りの人はその空気を直接吸い込むことで感染します。痰の中に菌をだしていない結核患者の場合は周りの人にうつす心配はありません。また、結核患者の使用した衣類、食器などからの感染もありません。

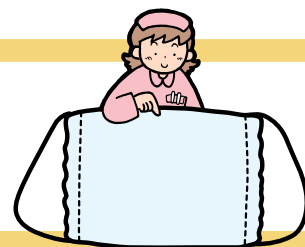


結核

Question Q 2

感染防御の注意点は？

排菌している肺結核患者さんはマスクをして、咳をした時に結核菌が飛び散らないようにします。患者さんをケアする医療従事者は専用(N95)マスクをして、空気中に飛散した結核菌を吸い込まないようにします。空気中に飛散した結核菌を除去するために、屋内の空気は十分な換気をします。また、結核菌は日光などの紫外線で殺菌されます。

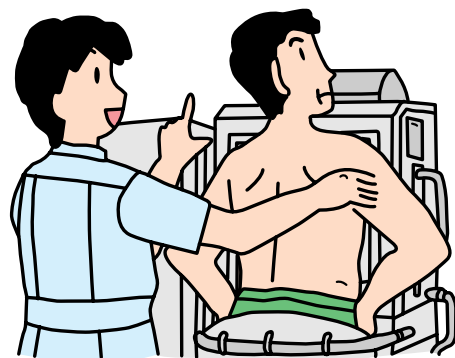


結核

Question Q 3

結核の診断と治療

結核は、肺の中に吸い込まれた後、人の体内で長期間生息します。この状態を‘潜在性感染’といいます。このような感染の状態では、特に何の症状もなく、他の人に感染させることもありません。感染しているかどうかは、ツベルクリン反応などで診断します。その後抵抗力の低下などに伴い結核菌が体内で増殖し、発熱、咳などの症状があらわれます。この状態を‘発病’といいます。主に肺結核として発病し、胸部X線や、痰中の結核菌を検査し診断します。治療は、3～4種類の薬を6ヶ月以上使用します。複数の薬を用いるのは、薬が効かない菌が出現するのを防ぐためです。



VREについて

Q^{uestion} 4

どんな菌？増えているの？

VREとは、腸球菌という菌のうちバンコマイシンという特効薬的抗菌薬が効かない細菌を指します。この薬が効かないVREは1990年代後半に欧米で急増し、現在も大きな問題になっています。

日本では近年報告が徐々に増えています。京都の病院では2004年まではほとんど検出されていませんでしたが、2005年以降入院患者さんの便や尿でVREが検出される例が増加しています。

VREについて

Q^{uestion} 5

感染したら症状は？感染したら困るの？

腸球菌は正常な腸内細菌の一部として、全ての人の消化管に住み着いている菌です。VREは腸球菌の一種ですので、たとえ腸内に紛れ込んでも症状が出たり病気を起こすことはまずありません。ただし、長期の入院治療を受けている方、悪性腫瘍（がん）のある方、大きな手術を受けた方など、抵抗力が落ちている場合には、腸球菌による病気（感染症）を起こすことがあるため注意が必要です。

VREについて

Q^{uestion} 6

日常的に感染するのですか？ （どのような状況下で病気になるのですか）

手術の前後や、尿路や血管の中にチューブ等が挿入されているなど、粘膜や皮膚に損傷がある場合に、体内に入りやすくなります。また、抗生物質で正常な腸内細菌が乱されていると、VREが住み着きやすくなります。ただし、通常の日常生活においては、VREが口から入ったとしても正常の腸内細菌で守られ、発病することはまずありません。

VREについて

Q^{uestion} 7

感染を防ぐには？

入院中の患者さんの中には感染しやすい条件を持った方がいますので、病院職員は常に手指衛生や器具の消毒、十分な清掃に注意を払っています。日常生活を過ごす上では感染の心配はほとんどありませんが、手洗いはあらゆる病原菌による感染を防ぐために最も重要であり、日頃から心がけていただきたいと思います。



インフルエンザについて

Q^{uestion} 8

普通のかぜとどう違うの？

普通のかぜとインフルエンザはウイルスが異なります。

普通のかぜはのどの痛み、鼻水、せきが主な症状ですが、インフルエンザは高熱、からだのだるさ、食べられない、筋肉や関節の痛みなど全身の症状が主体です。

日本では通常冬に流行し、短期間に乳幼児から高齢者まで多くの人に広がります。



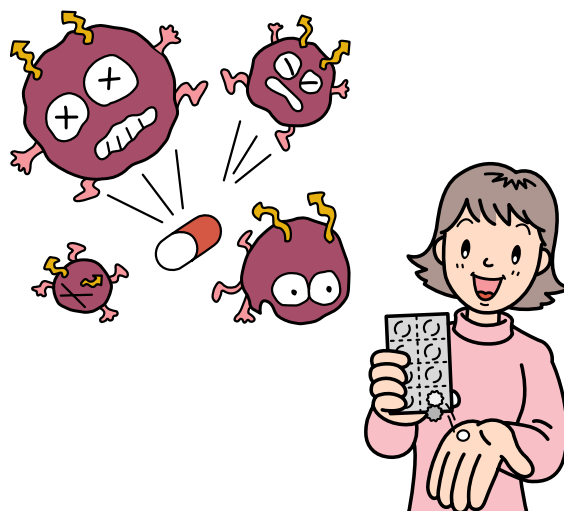
インフルエンザについて

Q^{uestion} 9

どのように診断治療するの？

流行期に突然の高熱やからだのだるさなどがあればインフルエンザを疑います。最近では鼻やのどの粘液を用いて迅速診断ができます。

症状が出始めて48時間以内なら、飲み薬や吸入薬のインフルエンザ治療薬で症状を軽くすることができます。



インフルエンザについて

Q^{uestion} 10 いつごろ流行するの？

日本では通常冬に流行し、12月から徐々に患者が増え始め、1～2月ごろピークを迎え3月末には終息します。

インフルエンザについて

Q^{uestion} 11 誰が流行を把握するの？

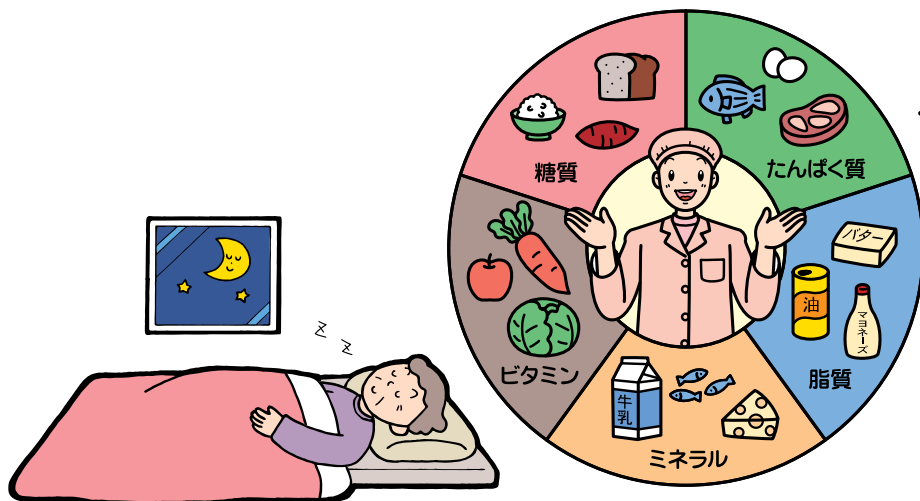
インフルエンザは流行期間中、定められた医療機関で毎週管轄保健所への報告が義務付けられている病気です。国の感染症情報センターが保健所からの報告を集計し、都道府県での流行状況を把握しています。

インフルエンザについて

Q^{uestion} 12 かかったらどうすればいいの？

基本的には自分の抵抗力でなおる病気なので、水分や栄養のあるものを十分摂取し、熱が十分さがりだるさがなくなるまで、自宅で休息をとりましょう。

医療機関でもらった薬は中断することなく飲みきるようにしましょう。
人のいるところではマスクをつけましょう。



ノロウイルスについて

Q^{uestion}13 なにから感染するの？



ウイルスに汚染された手指・ウイルスに汚染された食品・感染した人の便や吐物を介して感染し、嘔吐や下痢などの胃腸炎症状を引き起こします。

ノロウイルスについて

Q^{uestion}14 感染を予防するためには？

- こまめに手を洗いましょう。：トイレのあと・食事前・調理前・外出後など、石けんでていねいに洗いましょう。
- 食品や調理器具の取り扱いに気をつけましょう。：食材にウイルスが付着していることがあります。加熱調理やまな板など調理器具の洗浄・消毒を心がけ、生で食べる食品（野菜など）は十分に洗浄しましょう。
- 吐物や便の処理時には細心の注意を払いましょう。：処理時には手袋・マスクを使用し、汚れた場所は塩素系消毒剤で拭きましょう。

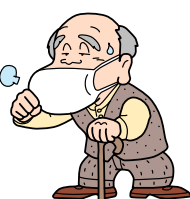
手洗いについて

Q^{uestion}15 手洗いの効果は？



皮膚に存在する微生物は、皮膚常在菌と皮膚通過菌(一時的に皮膚に付着する汚染菌)に分けることができます。常在菌は、皮脂腺、皮膚のひだなどの深部にも常在しており(表皮ブドウ球菌など)、消毒薬による手洗いによっても完全には除去できません。

通過菌は皮膚の表面、爪などに周囲環境より付着したもので、さまざまな微生物がふくまれています(大腸菌、黄色ブドウ球菌など)が、抗菌成分を含まない石鹸と流水で殆ど除去することができます。衛生的な日常生活を保持するためには、汚れや通過菌を除去することが重要です。外出後、排泄後・オムツ交換後、清掃後などは石鹸と流水で洗いましょう。また、調理作業前、なまものを扱う時、食事前などには食中毒を予防するためにも必要です。効果的な手洗いは、流水でぬらし石鹸をよく泡立て10～15秒間まんべんなく(手の平、甲、指間、爪の間)洗ってください。また、手洗い後には、きれいなタオル(ペーパータオル)でよく拭き、乾燥させることが重要です。



こんなときには、手を洗いましょう！

